

当センターでは、県内の消費行動を探るため南都銀行 32 か店の来店客（700 名）を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。

今回の「暮らし向きアンケート調査」の特徴としては、前回よりも「暮らし向きが悪くなった」の割合が減少、「消費が増えた」と答えた人の割合が増加するなど、明るい兆しが見られました。一方、今後の予想では暮らし向き感が悪くなり消費意欲も低下し、先行きに明るさを見出せない状況がうかがえる結果となりました。

## 《要 約》

### ①暮らし向き動向

1 年前（2009 年）と比べた現在の暮らし向き DI（※）は  $\Delta 32.2$  で、1 年前（ $\Delta 42.7$ ）よりも 10.5 ポイント上昇した。また、今後（1 年間）の暮らし向き DI は  $\Delta 32.8$  と現在より 0.6 ポイント低下すると予想している。

（※）DI（Diffusion Index）とは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、質問に対して「プラス（良い、増加等）」、「中立（変わらない）」、「マイナス（悪い、減少等）」の 3 つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した割合から「マイナス」と回答した割合を差し引きした指数をいう（以下同様）。

### ②消費支出動向と増減理由等

現在の消費支出 DI は 16.7 となり、1 年前と比べて 7.5 ポイント上昇した。消費支出が増加した理由は「出費がかさなった」（78.9%）が最も多く、増加した項目は「教育」（36.4%）が最も多かった。

今後 1 年間の消費支出 DI は、マイナスに転じ  $\Delta 38.6$  となった。消費支出を減らす理由は「世帯の収入が減った」（33.6%）が最も多く、続いて「年金や介護費用など老後の生活が不安」（27.3%）となった。

### ③貯蓄目的

貯蓄 DI は 24.0 で前回より 13.1 ポイント上昇した。貯蓄目的は、「老後の備え」（46.2%）が最も多く、預け入れ商品では「定期預金・定期貯金」（65.4%）が最も多かった。

### ④今後購入・支出予定の品目

上位から「プラズマ・液晶テレビ」（27.6%）、「国内旅行」（26.8%）、「婦人衣料」（18.7%）となった。前回よりも購入・支出予定が増えたのは「冷暖房器具・エアコン」（4.2 ポイント上昇）、「海外旅行」（3.3 ポイント上昇）、などであった。

### ⑤サービス・レジャー等の支出

1 年前と比べた現在の支出 DI が最も低いのは、「二泊以上の旅行（海外旅行含む）」（ $\Delta 32.2$ ）、続いて「一泊旅行」（ $\Delta 25.0$ ）となった。しかし、すべての項目の支出 DI が前回よりも上昇した。上昇幅が大きいのは「教養娯楽費」（13.5 ポイント上昇）、「スポーツ関連利用費用」（11.8 ポイント上昇）などであった。

### ⑥子ども手当の使い道

「子供のための教育関連の消費に使う」（59.3%）が最も多く、次に「子供の将来のために貯蓄する」（44.4%）、「子供のための教育関連以外の消費に使う」（13.0%）となった。

## 1. 暮らし向き動向

<現在>

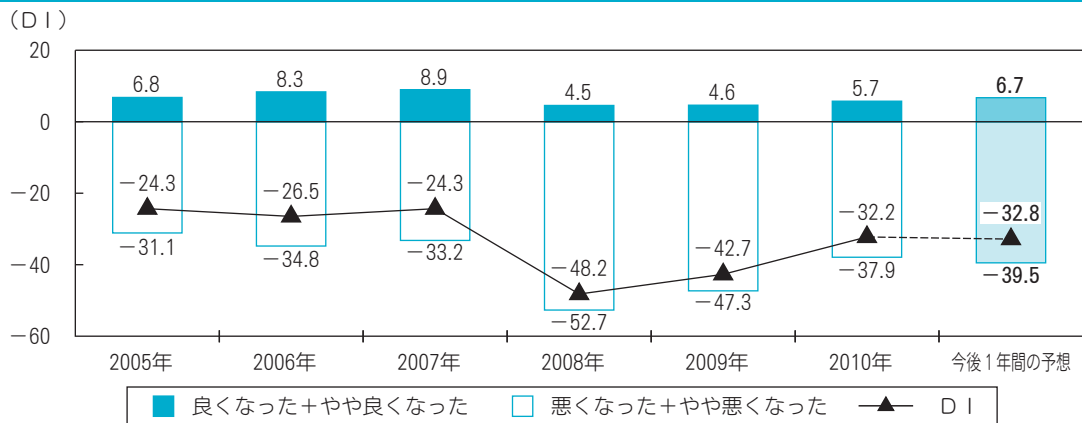
1年前（2009年）と比べた全体の暮らし向き動向をみると、暮らし向きDIは△32.2となり、前回（△42.7）よりも10.5ポイント上昇した。暮らし向き感は少し良くなったものの、低水準のままである。

年代別に見ると、すべての年代で前回よりも暮

らし向きDIは上昇している。

上昇幅は50代が最も大きく、今回△35.4と前回よりも14.9ポイント上昇した。しかし、中高年層の暮らし向きDIは、29歳以下（△4.4ポイント）、30代（△21.8ポイント）に比べるとまだ低く、暮らし向き感は良くない。

暮らし向きDI（1年前に比べ）



<今後1年間（2011年）>

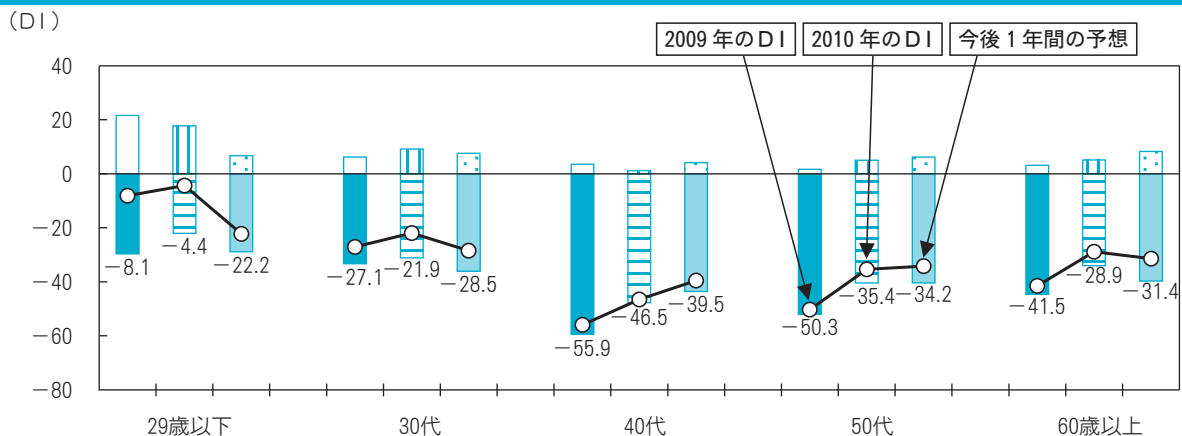
今後1年間の暮らし向き予想は、全体の暮らし向きDIが△32.8と現在よりも0.6ポイント低下しており、暮らし向き感はやや悪くなると予想している。

年代別に見ると、現在暮らし向き感が最も高い29歳以下で17.8ポイントの低下、30代も6.6ポ

イント低下した。50代と60歳以上はほぼ横ばいとなったが、現在の暮らし向き感が最も低い40代だけが7ポイント上昇した。

今後の暮らし向き予想は、先行きに明るさを見いだせない状況となっている。

年代別暮らし向きDI（1年前に比べ）



特集

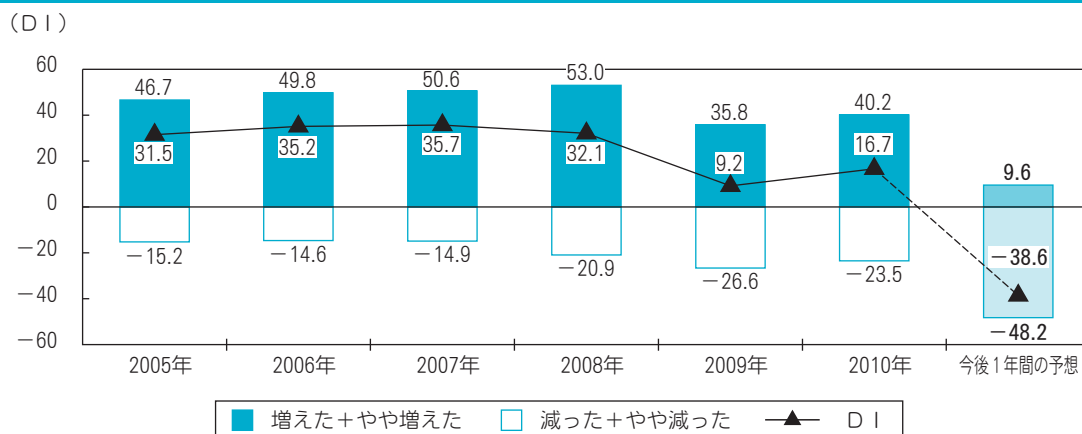
2. 消費支出動向

<現在>

1年前（2009年）と比べた全体の消費支出DI（以下消費DIという）は16.7で、前回（9.2）より7.5ポイント上昇した。「増えた」は40.2%で前回より4.4ポイント上昇、一方「減った」は23.5%で3.1ポイント低下した。

年代別で消費DIが最も高いのは29歳以下の33.3で、最も低いのは60歳以上の2.5であった。60歳以上を除くすべての年代で、前回より消費DIが上昇し、消費支出は活発になった。

消費支出DI（1年前に比べ）

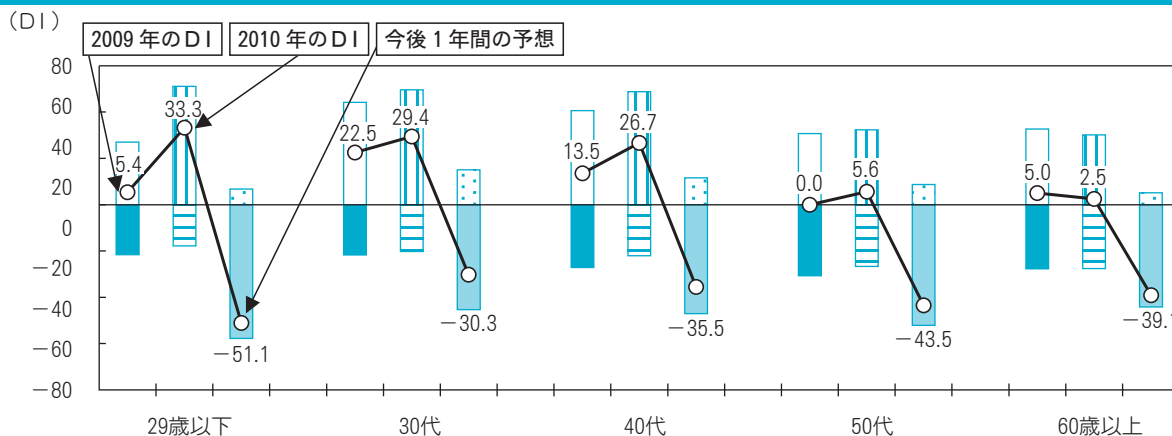


<今後1年間（2011年）>

今後1年間の消費DIの予想は、マイナスに転じて△38.6になり、現在の消費DIから大きく低下と予想。これから先の消費支出を、今よりも「減らす」と答えた人の割合が、各年代とも5割前後となっている。

年代別では、現在の消費DIが最も高い29歳以下のDIが△51.1と最も低くなった。続いて50代（△43.5）であった。少しゆるんだサイフの紐がまた引き締められる予想となっている。

年代別消費支出DI（1年前に比べ）



### 3. 消費支出の増減理由等

#### (1) 消費支出の増加理由および増加項目

1年前（2009年）と比べた消費支出が「増加した」と答えた275人を対象に、その理由をたずねた結果、「出費がかさなった」が78.9%で最も多かった。（図表不掲載）

支出が増加した項目（複数回答）は「教育」が36.4%で最も多く、続いて「飲食料品」（28.4%）、「交際費」（26.2%）の順となった。

年代別に最も増加した項目を比べてみると、29歳以下と50代、60歳以上の3つの年代は、「交際費」（それぞれ39.1%、36.5%、38.3%）が最も多くなった。30代と40代は「教育」（各49.2%、57.1%）が最も多い。（図表不掲載）

#### (2) 消費支出の減少理由および減少項目

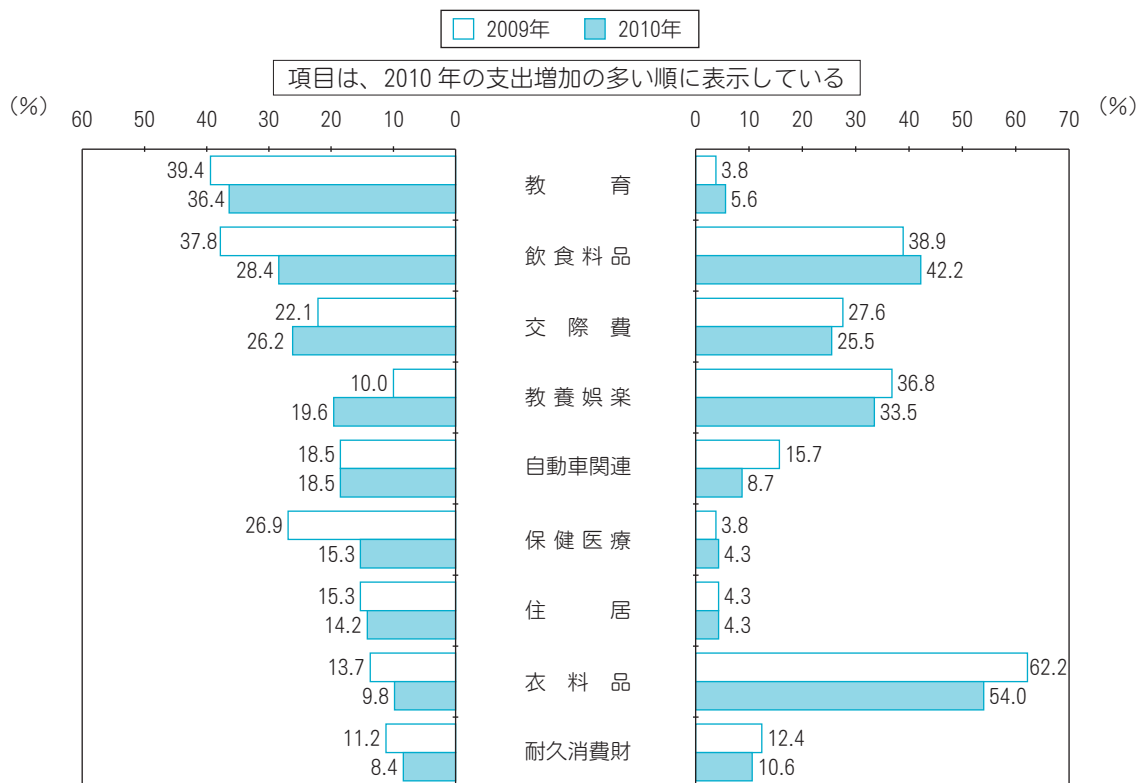
1年前（2009年）と比べた消費支出が「減少した」と答えた161人を対象に、その理由をたずねた結果、「節約した」（48.4%）が最も多く、次に「収入が減少した」（41.6%）となった。（図表不掲載）

支出が減少した項目（複数回答）は「衣料品」（54.0%）が最も多く、続いて「飲食料品」（42.2%）、「教養・娯楽」（33.5%）の順となった。

年代別に最も減少した項目を比べてみると、29歳以下は「飲食料品」と「教養・娯楽」（ともに62.5%）、30代は「飲食料品」（50.0%）であった。40代、50代、60歳以上は「衣料品」（それぞれ47.4%、60.5%、60.5%）であった。（図表不掲載）

支出が増加した費目（複数回答）

支出が減少した費目（複数回答）



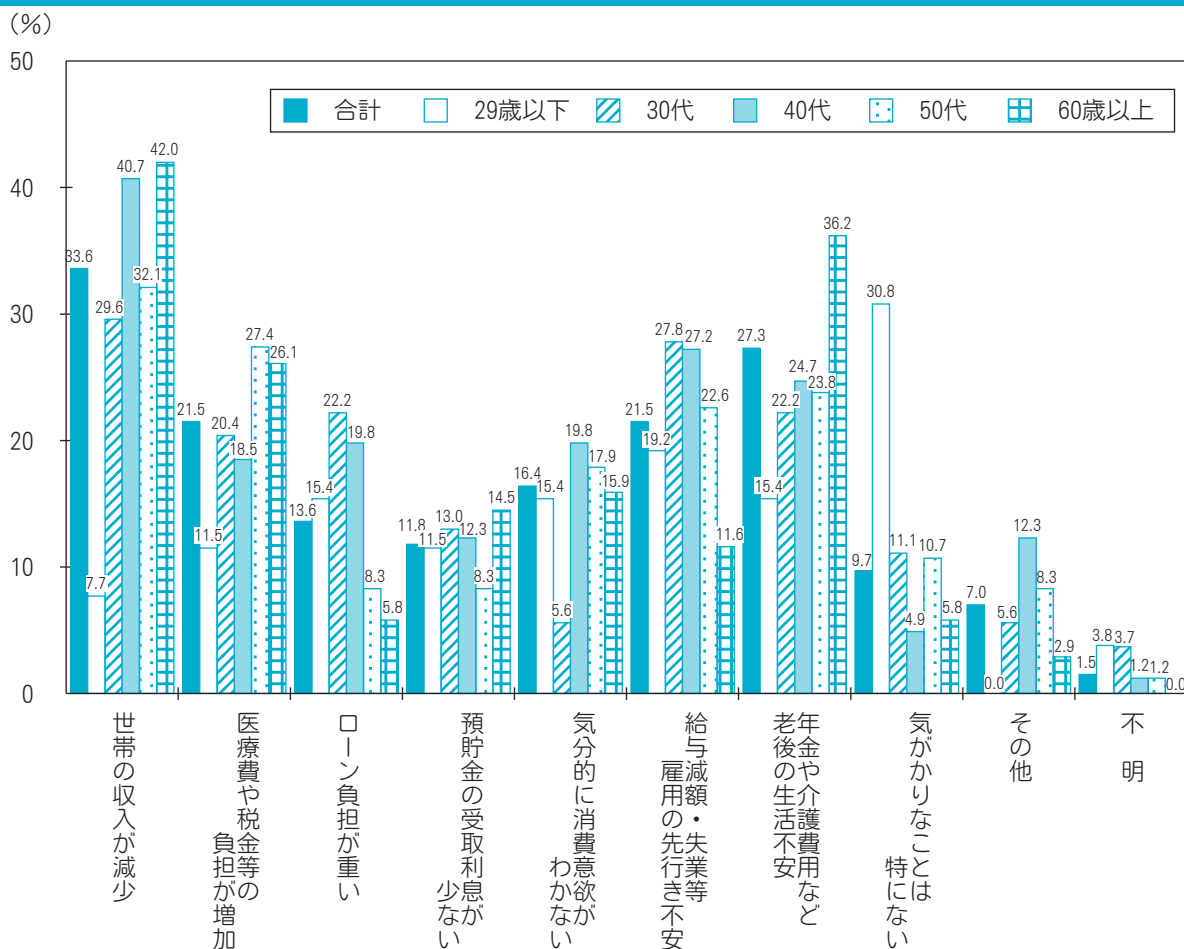
#### 4. 今後1年間に消費支出を減らそうと思う理由（複数回答）

今後1年間の消費支出について「減らす」「やや減らす」と答えた330人を対象に、その理由をたずねた。その結果最も多かったのが「世帯の収入が減少」（33.6%）で、次には「年金や介護費用など老後の生活不安」（27.3%）。続いて「給与減額・失業等雇用の先行き不安」と「医療費や税金等の負担が増加」（ともに21.5%）となった。

「消費支出を減らそうと思う理由」の項目ごとに、その特徴を見てみると「世帯の収入が減少」は、29歳以下を除くすべての年代で最も多く、60歳以上（42.0%）、40代（40.7%）、50代（32.1%）、30代（29.6%）の順であった。

「医療費や税金等の負担が増加」は、50代（27.4%）が最も多かった。「ローン負担が重い」は30代（22.2%）。「預貯金の受取利息が少ない」は60歳以上（14.5%）。「気分的に消費意欲がわかない」は40代（19.8%）が最も多かった。「給与減額・失業等雇用の先行き不安」は30代（27.8%）と40代（27.2%）が多い。「年金や介護費用など老後の生活不安」は60歳以上（36.2%）が多く、「気がかりなことは特にない」は29歳以下（30.8%）が最も多くなっている。

支出を減らそうと思う理由（複数回答）



## 5. 貯蓄目的（複数回答）

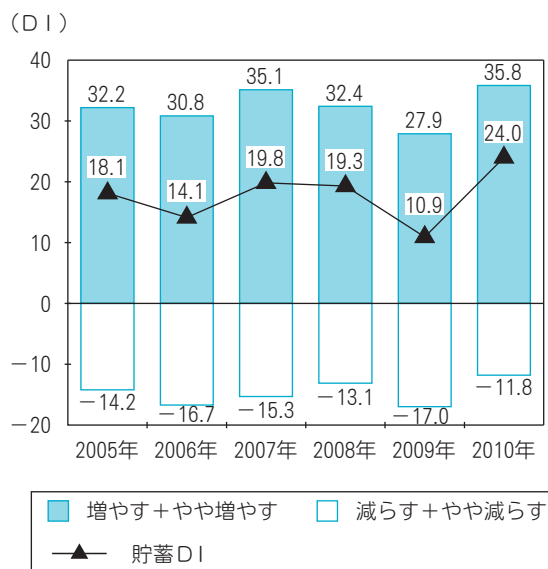
<全体>

今後1年間の貯蓄DIは「増やす」（35.8%）が前回よりも7.9ポイント上昇し、「減らす」（11.8%）は5.2ポイントの低下となり、貯蓄DIは24.0で前回よりも13.1ポイント上昇した。過去5年間で最も高くなった。

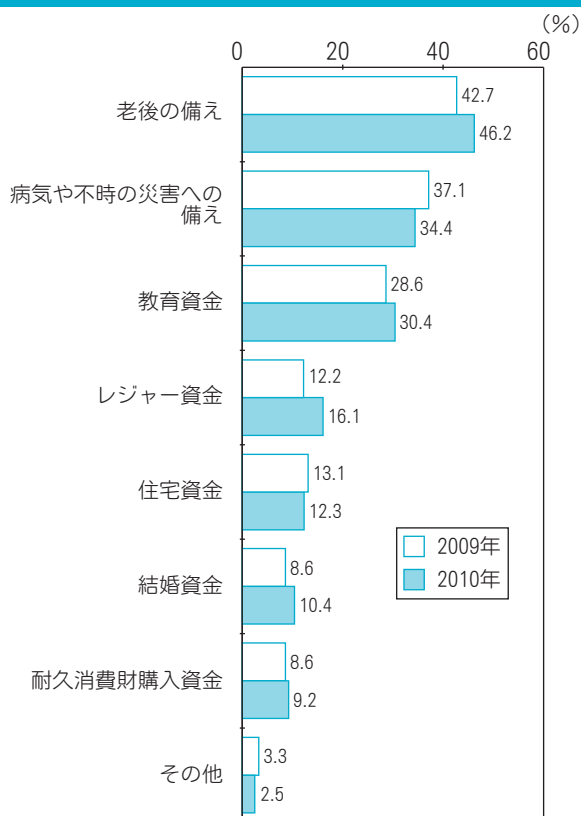
貯蓄の目的では、「老後の備え」（46.2%）が最も多かった。次に「病気や不時の災害への備え」（34.4%）、「教育資金」（30.4%）が続き、順番も割合も前回とほとんど同じ傾向であった。

今後貯蓄をする場合に考えている預け入れ商品の種類については、「定期預金・定額貯金」（65.4%）が最も多く、次いで「普通預金・通常貯金」（36.8%）となった。一方で、「投資信託」（9.6%）や「国債・公社債」（5.0%）などは少なかった。

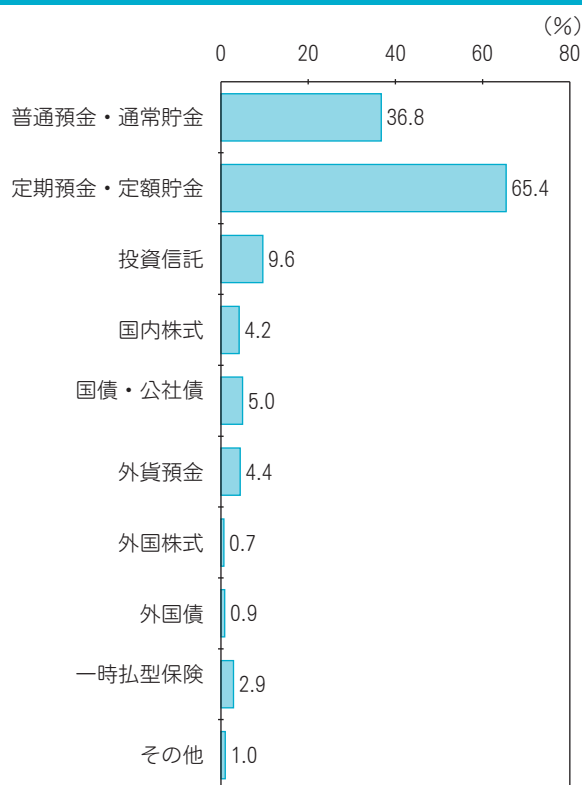
### 今後1年間の貯蓄DI



### 貯蓄の目的（複数回答）



### 今後貯蓄をする場合に考えている預け入れ商品の内訳（複数回答）



特集

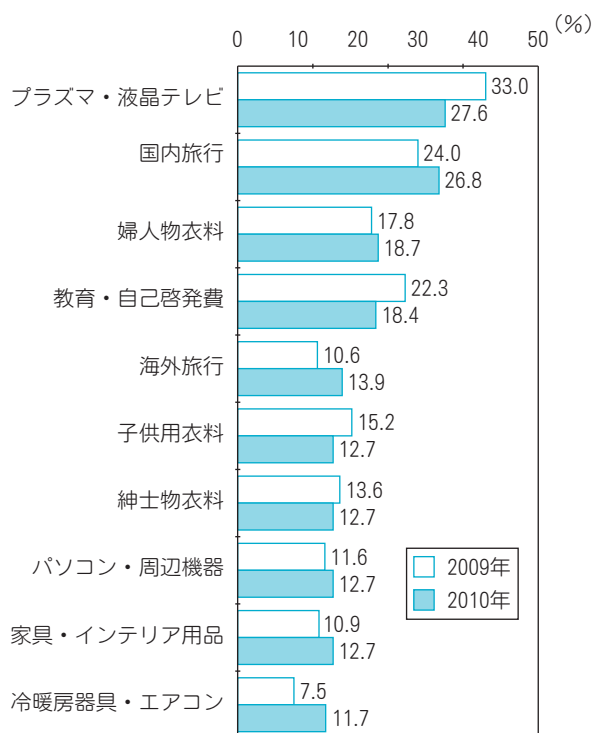
6. 今後1年間に購入・支出予定の品目（複数回答）

今後1年間に購入・支出予定の品目で最も多いのは「プラズマ・液晶テレビ」（27.6%）、続いて「国内旅行」（26.8%）、「婦人物衣料」（18.7%）の順となった。前回よりも購入・支出予定が増えたのは、「冷暖房器具・エアコン」（4.2ポイント上昇）、「海外旅行」（3.3ポイント上昇）、「国内旅行」（2.8ポイント上昇）、「家具・インテリア用品」（1.8ポイント上昇）、などであった。

年代別に、購入・支出予定の最も多い品目を見ると、29歳以下は「国内旅行」、30代も「国内旅行」、40代は「プラズマ・液晶テレビ」、50代は「プラズマ・液晶テレビ」と「国内旅行」が同じ割合であった。60歳以上は「国内旅行」となった。

同じく、既婚・未婚別では、既婚者は「国内旅行」、未婚者は、「婦人物衣料」となった。

今後1年間に購入・支出予定の品目（上位10品目；複数回答）



今後1年間に購入・支出予定の品目（複数回答）（年代別・既婚未婚別）

購入予定商品	合計	年 代 別						既 婚 ・ 未 婚 別	
		29歳以下	30代	40代	50代	60歳以上	既 婚	未 婚	
耐久消費財	冷暖房器具・エアコン	11.7	4.4	14.3	11.6	11.8	10.9	13.4	5.9
	プラズマ・液晶テレビ	27.6	15.6	24.4	36.0	24.2	26.3	26.4	29.6
	D V D レ コ ー ダ ー	9.4	4.4	8.4	15.1	7.5	9.0	9.2	11.1
	パソコン・周辺機器	12.7	24.4	14.3	12.2	12.4	7.1	12.2	14.1
	デジタルカメラ・ビデオカメラ	4.7	8.9	8.4	4.7	1.9	3.8	5.0	5.2
	冷 蔵 庫	7.5	0.0	8.4	14.5	5.0	5.1	9.0	3.7
	洗 濯 機	8.6	0.0	9.2	9.9	8.1	9.6	9.0	6.7
	乗 用 車	10.4	17.8	6.7	9.9	11.8	9.6	10.3	9.6
衣料品・サービス	靴・ハンドバッグ	11.4	20.0	12.6	5.8	16.1	10.3	7.5	25.9
	紳 士 物 衣 料	12.7	11.1	16.0	14.5	13.0	7.7	13.5	11.9
	婦 人 物 衣 料	18.7	24.4	20.2	16.9	21.1	17.3	15.9	30.4
	子 供 用 衣 料	12.7	11.1	26.1	23.8	3.1	0.6	15.7	3.7
	スポーツ・レジャー用品	9.1	8.9	9.2	9.3	9.9	7.1	7.3	15.6
	家具・インテリア用品	12.7	22.2	20.2	6.4	12.4	10.9	10.9	17.8
	国 内 旅 行	26.8	35.6	32.8	22.7	24.2	27.6	27.7	28.9
	海 外 旅 行	13.9	24.4	8.4	8.7	16.8	19.2	11.3	25.2
教育・自己啓発費	18.4	15.6	14.3	28.5	21.7	7.1	21.6	8.9	

## 7. サービス・レジャー等の支出

<現在>

1年前(2009年)と比べたサービス・レジャー等に関する支出DIは、「二泊以上の旅行(海外旅行含む)」(△32.2)が最も低く、続いて「一泊旅行」(△25.0)となった。

しかし、前回と比較するとすべての項目において支出DIは上昇した。

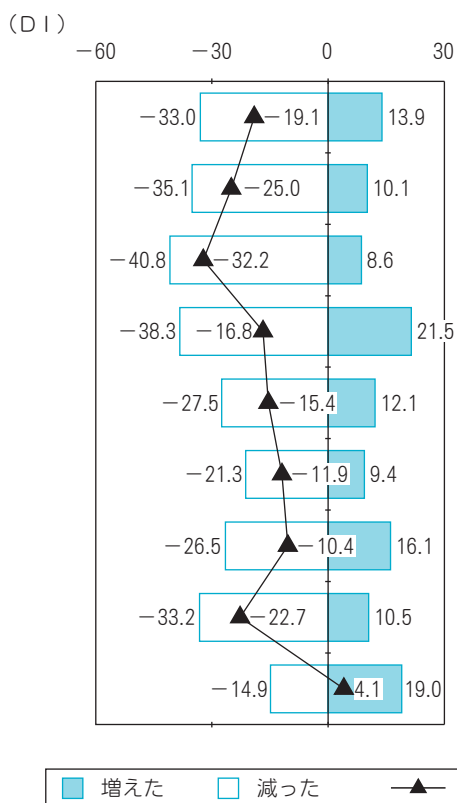
支出DIの上昇幅が最も大きいのは「教養娯楽費用」(13.5ポイント上昇)、次は「スポーツ関連利用費用」(11.8ポイント上昇)、「カルチャーセンターや習い事」(10.9ポイント上昇)であった。その後も「外食費」(9.2ポイント上昇)や「一泊旅行」(9.1ポイント上昇)、「日帰り旅行」(8.2ポイント上昇)が続きサービスやレジャーの支出は全体的に増加した。(図表不掲載)

<今後1年間(2011年)>

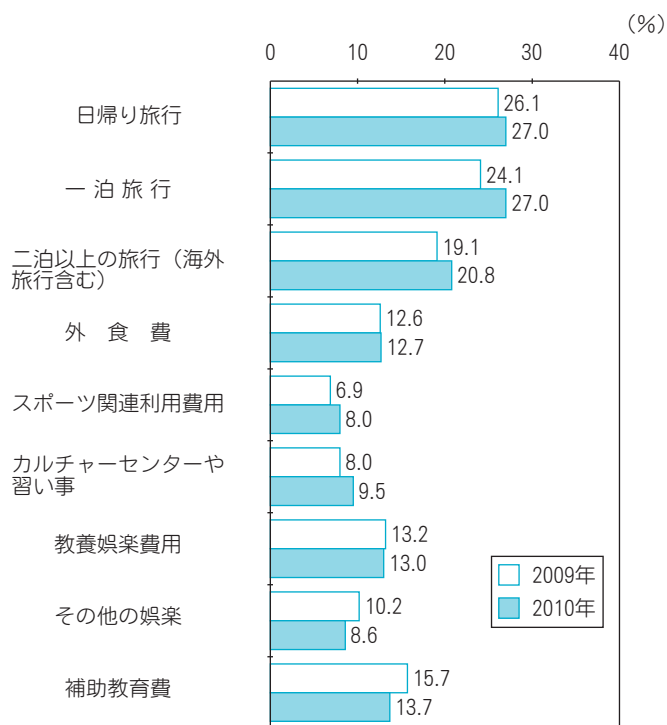
今後1年間に、サービス・レジャー等の支出で増やそうと考えているもの(複数回答)は、「日帰り旅行」(27.0%)と「一泊旅行」(27.0%)が同じ割合で最も多く、「二泊以上の旅行(海外旅行も含む)」(20.8%)が続いた。上位の3項目すべてが、前回よりも割合を増やしており、旅行に対するニーズは増加している。

年代別に今後1年間で最も支出を増やそうと考えている項目を見ると、29歳以下「日帰り旅行」(44.4%)、30代「一泊旅行」(33.6%)、40代「補助教育費」(33.1%)、50代「日帰り旅行」と「一泊旅行」(ともに23.6%)、60歳以上「一泊旅行」(35.9%)であった。(図表不掲載)

1年前と比べた支出



今後1年間に支出を増やそうと考えているもの





### 8. 子供手当の使い道（複数回答）

本年度から、次代の社会を担う子供の健やかな育ちを社会全体で応援する制度として「子ども手当」が支給されている。そこで、子ども手当を「受給している」と回答した216人にその使い道についてたずねた。

最も多かった使い道は、「子供のための教育関連の消費に使う」（59.3%）、続いて「子供の将来のために貯蓄する」（44.4%）、「子供のための教育関連以外の消費に使う」（13.0%）、「家族の消費のために使う」（11.6%）という結果になった。

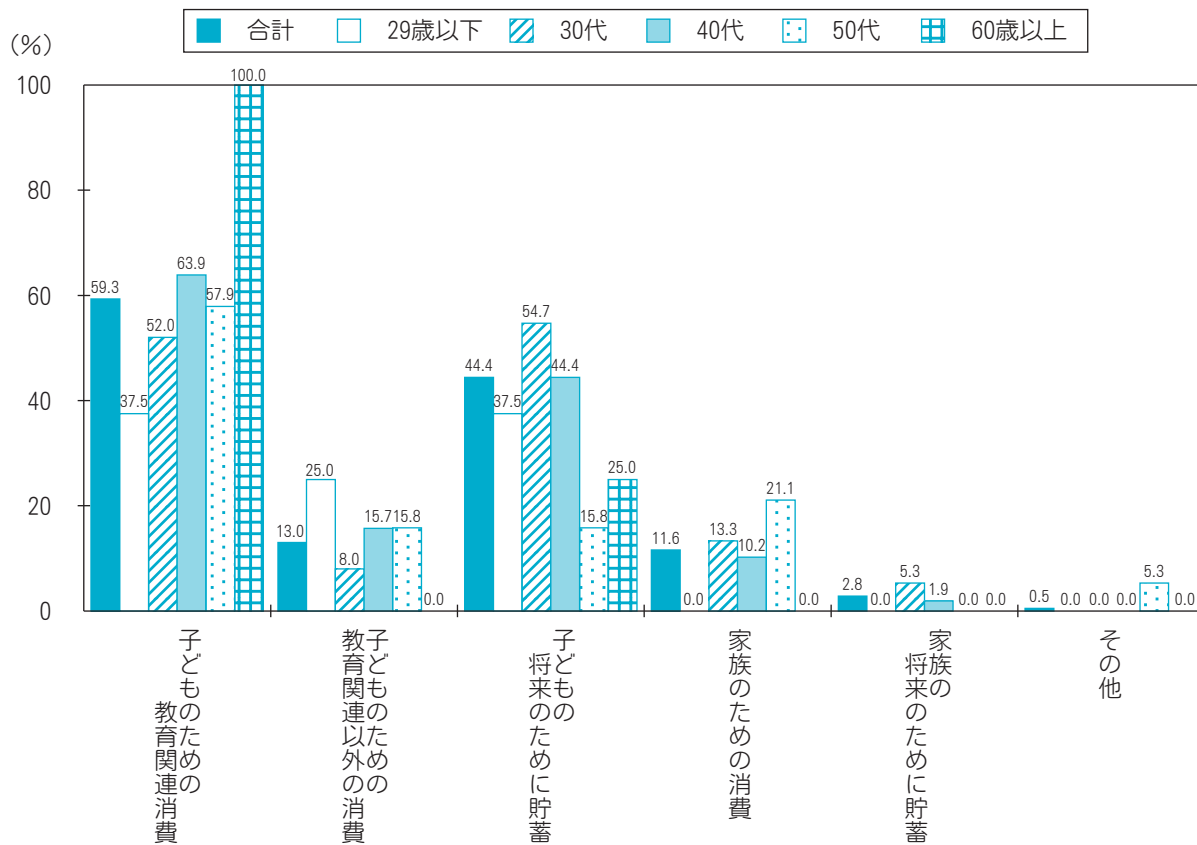
### 9. まとめ

今回の調査では、1年前と比べた暮らし向きの回答で「悪くなった」の割合が約2割低下、消費支出は「増えた」の割合が約1割増加するなど、明るい兆しが見られた。

しかし、今後1年間の予想では、暮らし向き・消費支出ともに低下した。円高の進行で景気の先行き不安が高まったことが影響していると思われる。

（奥 桂子）

子供手当の使い道（複数回答）



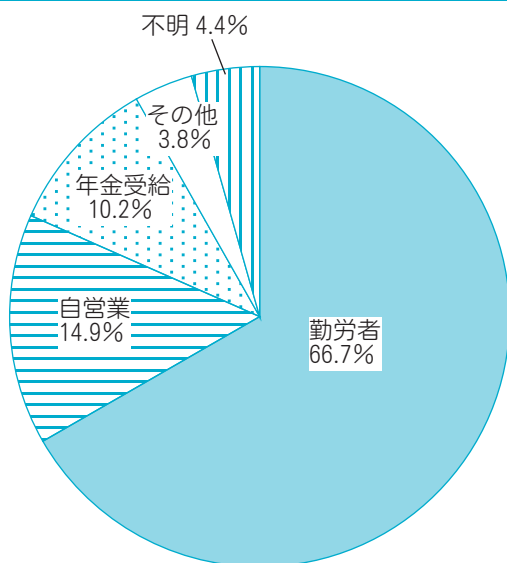
## 【調査要領】

- (1) 調査場所…… 次に掲げる奈良県下の南都銀行店舗 32 家店  
 本店営業部、紀寺、西大寺、西ノ京、平城、学園前、富雄、生駒、東生駒、郡山、筒井、  
 天理、天理南、桜井、榛原、大淀、高田、高田本町、馬見、香芝、真美ヶ丘、新庄、御所、  
 橿原、神宮前、王寺、西大和、三郷、平群、法隆寺、田原本、五条
- (2) 調査日…… 2010年10月5日
- (3) 調査方法…… 上記店頭において無記名で記入
- (4) 調査対象者数 700人  
 うち有効回答者数 684人  
 有効回答率 97.7%
- (5) 調査対象者（世帯主）の属性

(上段：人、下段：構成比 %)

年 齢	29歳以下	30代	40代	50代	60歳以上	不 明	合 計
未 婚 男 性	12 22.6	5 9.4	6 11.3	19 35.9	10 18.9	1 1.9	53 100.0
未 婚 女 性	9 11.0	14 17.1	11 13.4	29 35.3	19 23.2	0 0.0	82 100.0
既 婚 男 性	7 4.7	29 19.5	41 27.5	32 21.5	37 24.8	3 2.0	149 100.0
既 婚 女 性	12 3.8	66 20.8	103 32.5	67 21.1	67 21.1	2 0.7	317 100.0
不 明	5 6.0	5 6.0	11 13.3	14 16.9	23 27.7	25 30.1	83 100.0
合 計	45 6.6	119 17.4	172 25.1	161 23.5	156 22.8	31 4.5	684 100.0

世帯主の職業



世帯主の配偶者の状況

